

# フラメンコの樹

第7回

鈴木 真澄 (バイラオーラ)

Masumi Suzuki / 1958年中野生まれ。6歳でバレエ。12歳で新体操。15歳フラメンコ。18歳渡西。21歳結婚。22歳雄輔出産。23歳麻衣出産。25歳教室開設。26歳離婚。34歳雄輔渡西。36歳麻衣渡西。42歳会社設立。50歳初孫。60歳フラメンコ。俳句入門。



©GRASPANY

## 「日本とスペイン」

フラメンコとスペインが大好きになって47年。日本とスペインの違いに驚き、面白がってきました。

はじめてマドリードの空港に着いた時いきなりナンパされ、まだスペイン語の理解もままならぬ状態で予約していたホテルまでタクシーで送ってもらってなんとか言えたのは、「グラシアス！ アディオス！」（ありがとう！ さよなら！）それで無事だったのかも……

スペイン人男性の押しの強さにびっくり。挨拶のキスだけで真っ赤になってた18才。セビージャでは知り合いを訪ねたくて道を聞いたら「わしが一緒について行ってやる」。足の悪い上品なおじいさまと楽しくゆったりとお散歩……。手紙を出そうと郵便局で日本まで、と言うと、「じゃ、一緒に考えてみよう！」と言って、いくらの切手が何枚と、いくらのが何枚だから……気

がついたら後ろに長蛇の列、でもみんな平気な顔。プールに行こう！と下宿の仲間たちに誘われて行ったら思いきり泳いでいるのは私だけ……プールは甲羅干しのためにある。マスクほどの超ビキニの水着を履いた筋肉隆々の男性がプールサイドをナヨナヨ歩いている……トランスジェンダー初遭遇。目が離せないでいたら「どっから来たの？」ってニコニコ近づいて来て固まった。時代は変わって雄輔若手12才。「サッカーやりに外国に行きたい！」の一言を発端に外務省とスペイン大使館に通ってやっと許可してもらいマドリードへ。お役所に行けば口座が必要、銀行に行けば役所の書類が必要、たらい回しのあげく「私の大事な息子が12才なのにスペインでがんばる！って言ってるですよ！」って叫んだらOKが出た。

舞台は日本の大劇場。ソロリサイタル「スペインの仲間たち」本番中舞台から突然いなくなっちゃった唄い手の方。えーっ?! さっきはどうしたの?! うん、指の絆創膏が取れてきちゃってさあ……パルマで切れちゃったんだからしょうがないよね

15時発セビージャ行き特急に乗るべく駅に向かい別れを惜しんでいる内に乗り遅れてしまい、下宿のおばさんセニョーラ・フエリが駅員に、「いつも遅れるくせになんなのよ?!」と猛然と食ってかかったら、次の列車にどうぞ!と。その両は貸し切り状態の快適な道行きとなった。

70代のすてきなマダムたちをお連れしたツアー。バルセロナの海沿いのレストラン

にて今日のおすすめ魚介類をカゴに満載で紹介してくれる。「みなさん、スペインは初めてだからいろんな美味しいものを味わっていただきたいんです。どうかよろしくお願いします！」と私。そしたら……さまざまなスーブを小さなカップに、バラエティに富んだお料理を少しずつ全員に分けてくれました。やさしくて気のきいたサービースに感動した旨を伝えると、帰り際に素敵な店長さんが全員にキスしてくださり、マダムたちの頬もピンクに輝いてその可愛いこと!

あるお城のパラドール(国営ホテル)からの帰り道、なだらかな坂を下るや対向車が……私たちのバスの運転手「もうちょっと下がってね」「了解!」バックバック……あつ、あつ、あー! ガーン、ガラガラガシヤーン。芸術作品のような街灯が倒れちゃった。「あーあ、倒れちゃったね……」

「仕方ないよね……」「うん、じゃ、またね。」と手を振って平然と別れるそれぞれの運転手。この2人、バルで会ったら「この間はねー!」って話に花が咲くにちがいない。

素直に褒める、ノーってはっきり言う……スペイン。言わなくてもわかるだろう。うやむやにしておく方がいい……日本。明日出来ることは、今日やらない……スペイン。どうぞだから、今日こままでやっちゃおう……日本。楽しく生きるために仕事をしている……スペイン。仕事するために生きている……日本。善は急げ、思い立ったが吉日、フラメンコの仕事が楽しくてしょうがない……私。